



ISO 9001
ISO 14001
認証工場

TLV®

取扱説明書

パワートラップ

GP10／GT10

GP14／GT14

 株式会社 ティエルバイ

081-65318-09

はじめに

このたびは、TLV パワートラップ（以下、本製品という）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は工場において十分な検査を行い出荷しております。

まず本製品がお手元へ届きましたら仕様の確認と外観チェックを行い、異常のないことをご確認ください。

本取扱説明書には、お客様個別の特殊仕様に関する説明書が添付されていないことがあります。この場合の詳細については、当社にお問い合わせください。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

また、製品の取り付け時はもとより、その後の保守、分解・組み立て、トラブルシューティングにも必要となりますので大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	1
製品の説明	3
使用目的	3
作動説明	4
仕様	5
構造	5
製品の取り付け	6
オープンシステムの配管について（GP 型）	6
クローズドシステムの配管について	7
ドレンヘッダーの寸法選定について	11
パワートラップを複数・並列に取り付ける場合	13
設置および、メンテナンススペース	14
本体固定方法	14
メンテナンススペース	14
操作方法および定期点検	15
操作方法	15
定期点検と診断	16
分解・組み立て	17
分解・組み立て用工具リスト	18
GP10、GP14 の分解・組み立て	19
GT10、GT14 の分解・組み立て	21
トラブルシューティング	23
症状からの原因追求	23
不適合原因分析表	24
原因と処置方法	25
予備品リスト	28
保管について	30
保管要領	30
製品保証	31
アフターサービス網	32

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や物的損害を未然に防止するためのものです。
また、注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 本製品を正しく安全に使用していただくため、本製品の取り付け、使用、保守、修理などにあたっては、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項を必ず守ってください。なお、これらの注意に従わなかったことにより生じた損害、事故については、当社は責任と保証を負いません。

図記号

	危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです
	危険 : 人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容
	警告 : 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容
	注意 : 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容

 警告	<p>フロートを直接火にかけて加熱しないでください。 内圧が上昇して、フロートが破裂し重大な人身および物損事故の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベント管およびオーバーフロー管は必ず設けてください。 オーバーフロー管がない場合、ベント管からドレンが吹き出すことがあり、ケガ、火傷をする恐れがあります。 ・ ベント管およびオーバーフロー管は必ずピットなどの安全な場所まで施工してください。 ・ オーバーフロー配管径は、ドレン入口管と同口径以上を確保ください。
 注意	<p>製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。 製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。</p> <p>20kg程度以上の重量物については、吊り上げ装置などを使用してください。 腰痛、落下によるケガ、損傷などの恐れがあります。</p> <p>製品出口側の開口部は、直接人が触れられないようにしてください。 流体を排出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。</p> <p>製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。 製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。</p> <p>製品の修理には、正規の部品を必ず使用してください、また製品の改造は絶対しないでください。 製品の破損、流体の吹き出し、異常作動によりケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。</p> <p>接続ネジ部を締め過ぎないようにしてください。 締め過ぎますと接続部が割れて流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。</p> <p>凍結しない仕様でお使いください。 凍結すると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。</p>

	<p>ウォーターハンマーなどの衝撃が加わらないようにしてください。</p> <p>大きな衝撃が加わると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。</p> <p>危険流体が排出される現品の出口側は、流体の性状にあった方法で回収、希釈などの処置、処置方法を実施ください。</p> <p>流体の洩れ、流出で引火、腐食などによりケガ、火災、損傷などする恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「設計された配管システム」に基づいて、すべての配管作業を終了した後は、もう一度すべての配管接続部の締め忘れ、ガスケットの入れ忘れ、不安定な取り付けなどがないか点検してください。 ・なお、運転初期には作業員はベント管またはオーバーフロー管の開放部分から離れて作業をしてください。 <p>運転初期には、大量のドレンが流入してパワートラップが一時的にオーバーロードになることがあります。ドレンがゆっくりと流入するように、入口バルブをゆっくり開弁してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配管の修正や分解が必要な場合、およびバルブの開閉・調整は熟練した整備員が行ってください。 ・配管接続や本製品を分解する場合には、あらゆる努力をして出入口弁の閉鎖と内部圧力の減圧をして配管や本製品が完全に冷えてから作業してください。 ・どの接続部を開けるときにも（接続部を取り外すときは、仮に内圧があっても急に流出するのを防ぐため）配管やボルトはゆっくりと外してください。 <p>本製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。</p>
--	---

製品の説明


注意

製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度などの仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。

製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。

使用目的

GP10/GT10/GP14/GT14 型は、真空を含めた低圧域から高圧域へ、あるいは低い位置から高い位置へ液体を圧送する場合にご使用いただけます。

GT10/GT14 は GP10/GP14 にスチームトラップ機能を付加させたもので、出入口圧力の関係が反転する用途に使用します。

圧送システム（配管方法）には、クローズドシステムとオープンシステムがあり、システムによって GT 型と GP 型を使い分けます。

ご購入いただいたパワートラップ型式と、設置ご予定の圧送システムとが合致しているかどうかをお確かめください。

システム種類	クローズド システム	オープン システム
システムの概略構成		
システムの特長	<ul style="list-style-type: none"> スチームトラップは不要です（パワートラップ GT 型にはトラップ機能が内蔵されています） フラッシュ蒸気を配管外に出しません ドレンヘッダーが小型になります 装置側が真空の場合でも圧送できます 	<ul style="list-style-type: none"> 複数装置のドレンを集合して圧送できます 低い位置の装置にも利用できます
システムの注意点	<ul style="list-style-type: none"> 装置 1 台に 1 つのシステムが必要です 装置ドレンは自然流下しなければなりません 従って 0.8m 程度の装置高さが必要です 	<ul style="list-style-type: none"> 装置には、個々にスチームトラップが必要です フラッシュ蒸気を外部に排出する必要があります
使用するパワートラップ型式	トラップ内蔵パワートラップ GT10/GT14	パワートラップ GP10/GP14
	常に装置側圧力より背圧の方が高い場合（真空装置など）は、 GP10/GP14 も使用できます	

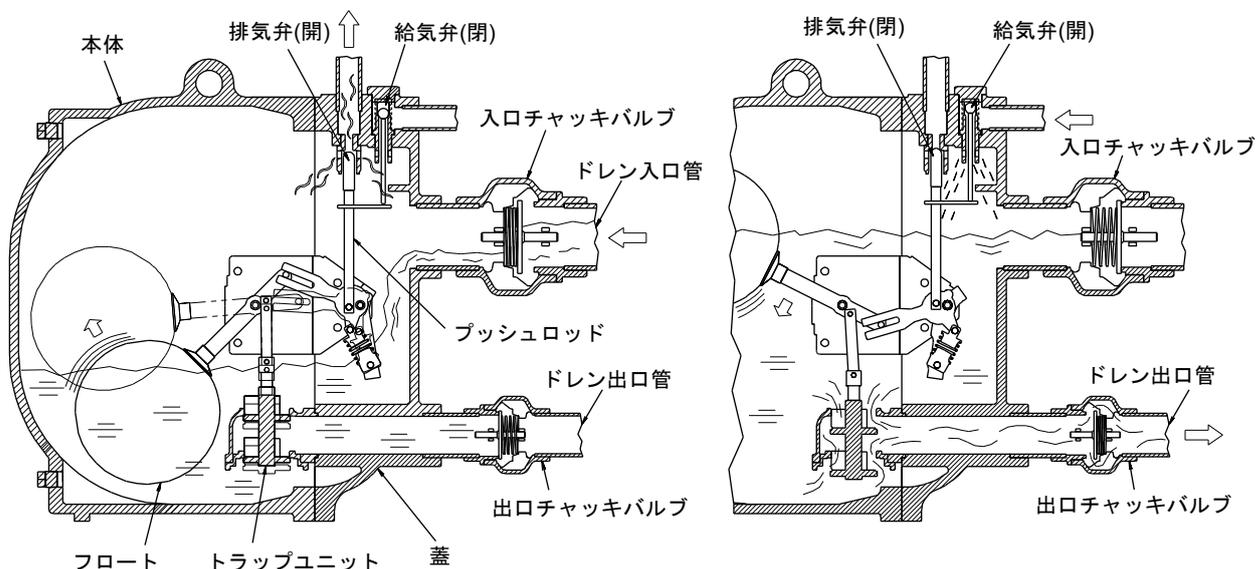
作動説明



注意

製品出口側の開口部は、直接人が触れられないようにしてください。
流体を排出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

- (1) ドレン入口管より、入口チャッキバルブを通して本体内にドレンが流入するとフロートが上昇します。本体内の気体は排気弁を通して抜けます。
 - GT10/GT14 の場合、フロートの上昇に応じてトラップユニットの主弁が開きます。
[Pi] > [Pb] (入口圧力 [Pi] が背圧 [Pb] より高い場合) の場合、ドレンは出口チャッキバルブを通りドレン出口管へ排出されます。(通常のトラップ機能)
 - GP10/GP14 および、GT10/GT14 で [Pi] < [Pb] の場合、ドレンは排出されず本体内に溜まります。
- (2) ドレンが本体に溜まりフロートが上点まで上昇すると、スナップアクションユニットのプッシュロッドが急上昇して排気弁を閉じ、給気弁を開きます。
給気弁から給気された圧力により本体内部圧は背圧より高くなり入口チャッキバルブを閉弁させ、出口チャッキバルブを押し開き本体内部ドレンを出口管へ排出します。
- (3) 本体内部ドレンが排出されることにより、フロートは本体内部水位と共に下降します。
フロートが下点まで降下すると、スナップアクションユニットのプッシュロッドは急降下して排気弁を開き、給気弁を閉弁し (1) の状態に戻ります。



(1)、(3) ドレン流入工程 (排気工程)

(2) ドレン圧送工程 (給気工程)

仕様



注意

製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。

製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。

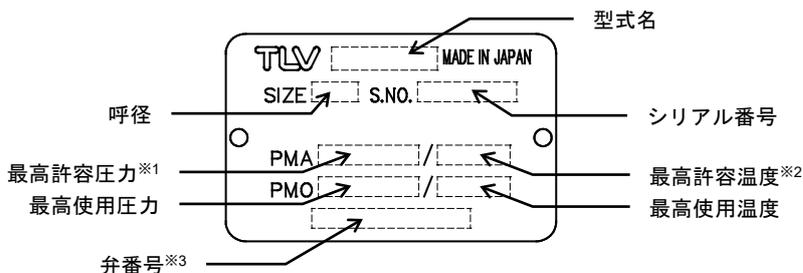


注意

凍結しない仕様でお使いください。

凍結すると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

仕様の詳細についてはネームプレートにより確認してください。



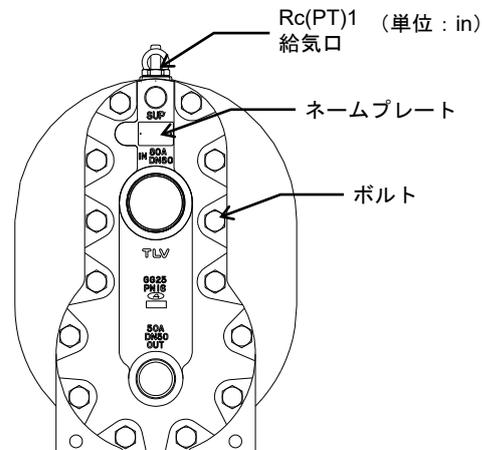
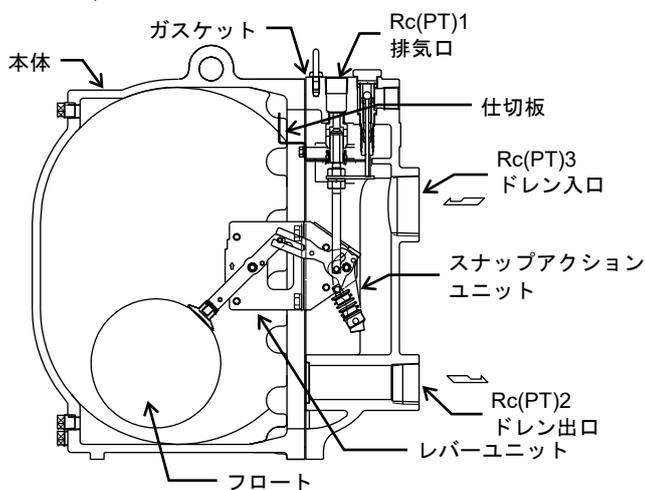
※1：最高許容圧力 PMA：耐圧部（本体）が許容される最高圧力で、最高使用圧力ではありません。

※2：最高許容温度：耐圧部（本体）が許容される最高温度で、最高使用温度ではありません。

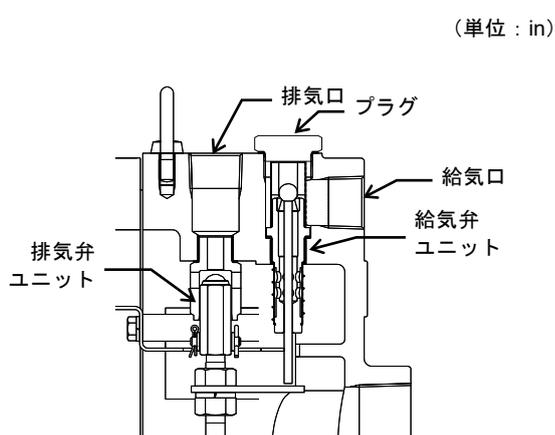
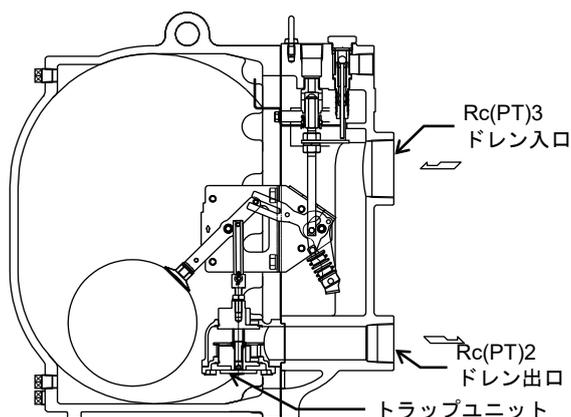
※3：弁番号の表示については、オプションです。指示されたときのみ表示されます。

構造

GP10/GP14



GT10/GT14



製品の取り付け



注意

製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。

製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。



注意

20kg程度以上の重量物については、吊り上げ装置などを使用してください。

腰痛、落下によるケガ、損傷などの恐れがあります。



注意

製品出口側の開口部は、直接人が触れられないようにしてください。

流体を排出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。



注意

接続ネジ部を締め過ぎないようにしてください。

締め過ぎますと接続部が割れて流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

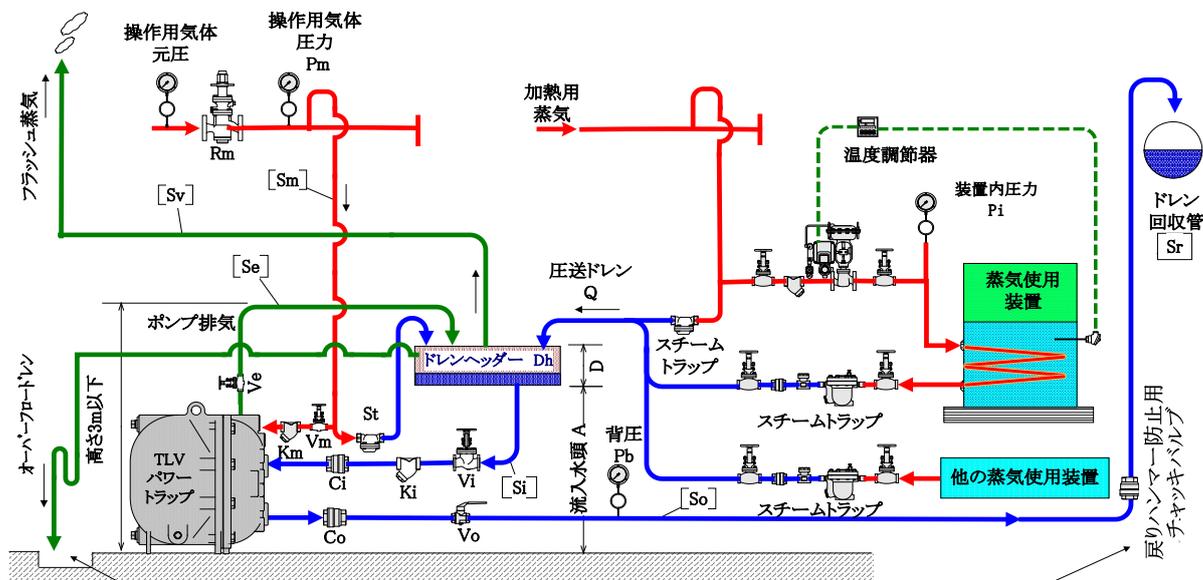


注意

ウォーターハンマーなどの衝撃が加わらないようにしてください。

大きな衝撃が加わると製品が破損して流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

オープンシステムの配管について (GP型)

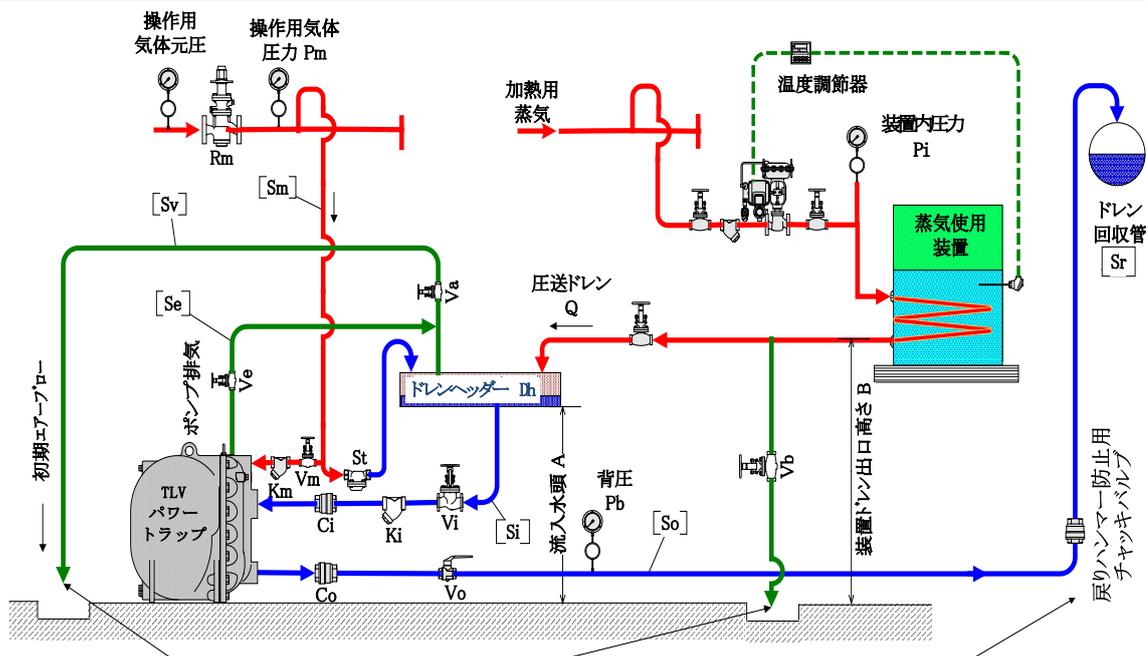


ピットなどの安全な場所まで配管してください

立ち上り配管の位置がパワートラップより30m以上離れている場合、戻りハンマーを防止するためにチャッキバルブの取り付けを推奨します。

Q	圧送ドレン	Se	排気管	Rm	操作気体用減圧弁
A	流入水頭	Sv	ベント管	St	スチームトラップ
Pm	操作気体圧力	Dh	ドレンヘッダー	Vi	入口バルブ
Pb	背圧	Ci	入口チャッキバルブ	Vo	出口バルブ
Si	ドレン入口管	Co	出口チャッキバルブ	Vm	操作気体用バルブ
So	ドレン出口管	Ki	ドレン入口ストレーナー	Ve	排気管バルブ
Sr	ドレン回収管	Km	操作気体用ストレーナー		
Sm	操作気体用給気管	Pi	装置内圧力		

クローズドシステムの配管について



ピットなどの安全な場所まで配管してください。

立ち上り配管の位置がパワートラップより 30m 以上離れている場合、戻りハンマーを防止するためにチャッキバルブの取り付けを推奨します。

Q	圧送ドレン	Se	排気管	Rm	操作気体用減圧弁
A	流入水頭	Sv	エアブロー管	St	スチームトラップ
Pm	操作気体圧力	Dh	ドレンヘッダー	Vi	入口バルブ
Pb	背圧	Ci	入口チャッキバルブ	Vo	出口バルブ
Si	ドレン入口管	Co	出口チャッキバルブ	Vm	操作気体用バルブ
So	ドレン出口管	Ki	ドレン入ロストレーナー	Ve	排気管バルブ
Sr	ドレン回収管	Km	操作気体用ストレーナー	Va	エアイベントまたはバルブ
Sm	操作気体用給気管	Pi	装置内圧力	Vb	ブローダウンバルブ

(1) 圧送流体について

- スチームドレン、水、および比重 0.85~1.0 の非可燃、非毒性液体に限定されます。特別流体用に製作されたパワートラップはこの限りではありません。

(2) 給気管について

- 20mm (3/4in) 以上を使用してください。
- できるだけパワートラップの直近に、ストレーナー (40 メッシュ以上) を取り付けてください。
- 操作気体圧力は、GP/GT10 は最高 1.05MPaG、GP/GT14 は最高 1.4MPaG です。
- 操作気体は蒸気、圧縮空気、窒素などの非可燃、非毒性気体を使用してください。
- 操作気体が蒸気の場合で、パワートラップを 2ヶ月以上の期間で停止する可能性がある場合は、給気管に枝別れ管を取り付け、ドレンヘッダーへ接続する方の管にスチームトラップを取り付けてください。(【オープンシステムの配管について】 [St] 図参照)
- 操作気体が圧縮空気や窒素の場合は不要です。

《クローズドシステムの場合》

- 操作気体は、蒸気などの凝縮気体を使用してください。特殊な場合を除き、空気、窒素などの非凝縮ガスは使用できません。

(3) 給気管の減圧弁について

- 操作気体圧力が、最高使用圧力より高い場合は、パワートラップへの操作気体圧力を下げるために、当社製 減圧弁（COSPECT シリーズ）の取り付けが必要です。
この場合、減圧弁とパワートラップの間に安全弁を取り付ける必要があります。
- 操作気体圧力が最高使用圧力以下の場合で、圧送スピードを低下させる目的で減圧弁を取り付ける場合には、安全弁は不要です。
- 減圧弁は、パワートラップよりできるだけ遠い位置に設置してください。
操作気体圧力 0.5MPaG 未満 3m 以上
操作気体圧力 0.5MPaG 以上 3m+（0.1MPaG につき+1m 以上）
- 減圧弁の設定圧力は、背圧より 0.05~0.15MPa 程度高く設定します。
設定した操作気体気圧でもパワートラップの排出能力が不足する場合は、さらに設定圧を高くします。

(4) 排気管について

- 25mm（1in）以上を使用してください。
- 排気先はドレンヘッドに接続してください。
- 大気へ排気する場合、大気放出口より約 90~100dB の排出音が 2~3 秒発生することがあります。（ドレンヘッドに接続した場合は 60dB 以下になります。）
- 排気管の最上部（ドレンヘッドへの接続部）の高さがグラウンドから 3m を超えないようにしてください。
3m 以上立ち上げると、排気管にドレンが滞留してパワートラップの排気を妨げます。
もし 3m を超える場合は、次のどちらかの対策を施してください。
 - ・排気管の本体取出口付近にスチームトラップを取り付ける。（図 1）
 - ・排気管の本体取出口付近にチャッキバルブを取り付けてドレン入口管に接続する。（図 2）

《クローズドシステムの場合》

- 排気管については、必ずドレンヘッドの上部に接続してください。

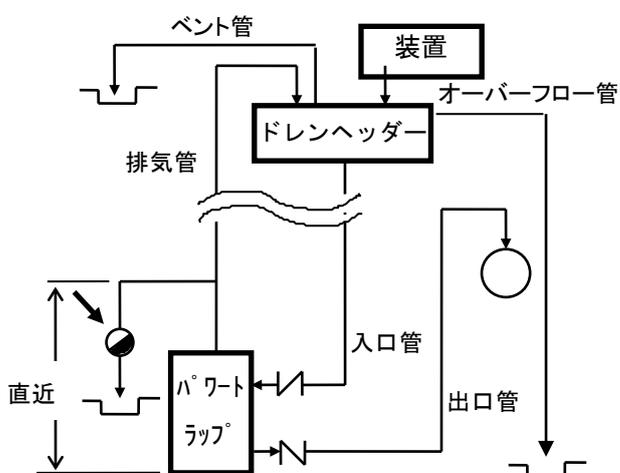


図 1

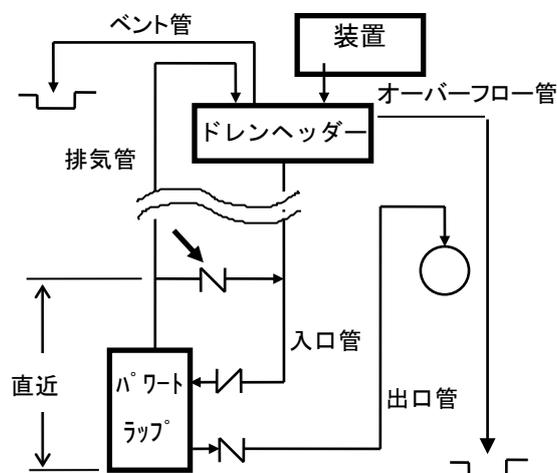


図 2

(5) 入口、出口配管

- ドレン入口管にはストレーナー（40メッシュ以上）を取り付けてください。
ストレーナーは、メンテナンススペースを確保できるように取り付けてください。
- 入口、出口のチャッキバルブは、方向を間違えないように取り付け、特に入口管チャッキバルブは、パワートラップの間近に取り付けてください。
- チャッキバルブは、当社供給のチャッキバルブを使用してください。
他のチャッキバルブを使用すると所定の排出能力を得られないことがあります。

(6) 各配管のバルブ

- ドレン入口・出口管バルブ、および、給・排気管バルブは、所定の排出能力を確保するために、フルボアボールバルブまたは、仕切弁を取り付けてください。
- メンテナンスが容易になるように、各バルブとパワートラップの間には、ユニオンまたは、フランジ接続部を設けてください。
- パワートラップの分解、修理に必要なメンテナンススペース（【メンテナンススペース】参照）を設けてください。

(7) ドレンヘッダーと流入水頭

- ドレンヘッダーの寸法決定は、【ドレンヘッダーの寸法選定について】を参照してください。
ドレンヘッダーは流入ドレンのフラッシュ蒸気量と、パワートラップがドレンを圧送している時間分だけ保有するドレン量とで、寸法（大きさ）とベント管口径が決定されます。
ドレンヘッダーが小さいと、ドレンがフラッシュ蒸気流に巻き込まれて、ベント管から流出します。また、ベント管口径が小さいとドレンヘッダー内圧が上昇し、ドレンの流入が妨げられます。適正なドレンヘッダーの寸法を選定してください。
- 流入水頭は、パワートラップの下端よりドレンヘッダー下端までの距離を示します。
GP10/GT10/GP14/GT14の標準流入水頭は860mmです。
事前に低い流入水頭で設計された場合は、860mm以下でも許容されますが、GP10/GT10/GP14/GT14の最低流入水頭は、710mmです。
- ドレンヘッダーのベント管を大気に開放する場合には、必ずオーバーフロー管をピットなどの安全な場所まで取り付けてください。

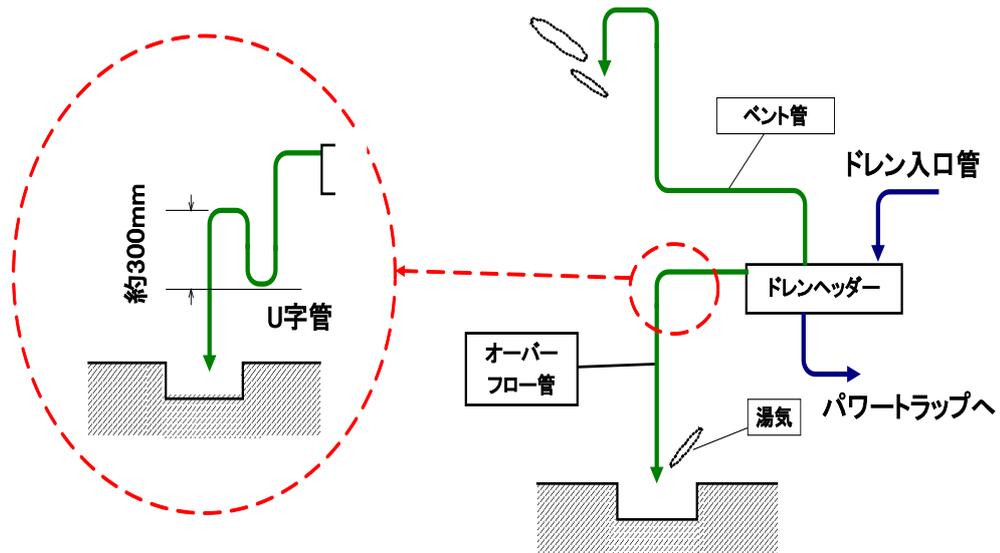


警告

- ・ ベント管およびオーバーフロー管は必ず設けてください。
オーバーフロー管がない場合、ベント管からドレンが吹き出すことがあり、ケガ、火傷をする恐れがあります。
- ・ ベント管およびオーバーフロー管は必ずピットなどの安全な場所まで施工ください。
- ・ オーバーフロー配管径は、ドレン入口管と同口径以上を確保ください。

オーバーフロー管から湯気を出せない場合、オーバーフロー管にU字管を設けてください。
U字部分にドレンが溜まり湯気を軽減することが出来ます。

【注意】ベント管は絶対にU字管構造にしないでください！



オーバーフロー管のU字管部分は、凍結・錆泥による「詰り」が起こる可能性があります。特に、配管サイズが細い場合（一般的に25mm（1in）以下）では、その可能性が高くなります。オーバーフローに詰りが発生した場合、熱水がベント管から吹き出します。そのため、ベント管の端末部は必ず人が通らない安全な所まで施工してください。

(8) 出口配管の流速について

パワートラップは、本体内のドレンを給気圧で押し出します。

- GP10/GT10/GP14/GT14 が、1回の排出工程で圧送するドレン量は、約30リットルです。
- 1回の圧送時間は、背圧や給気圧により異なりますが、3～30秒です。
つまり、GP10/GT10/GP14/GT14 が排出する際のドレン出口管の瞬間流量は、
- 4t/h～40t/h になります。
- ドレン出口管にドレン流量計を設置するときは、この瞬間流量を考慮しなければなりません。

《クローズドシステムの場合にのみ適用》

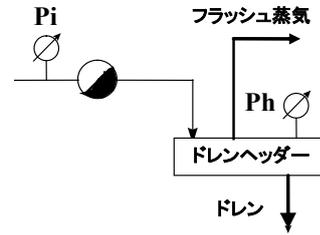
- (9) 蒸気使用装置やドレンヘッダー内の初期空気と装置で発生したガスを排除するためにスチーム用エアイベントまたは、手動バルブが必要です。
エアイベントまたは、バルブは上図の [Va] の位置に取り付けてください。
手動バルブの場合は、初期空気を抜くために、パワートラップが2～3回作動するまで、[Va]を微開します。
- (10) 【製品の説明】に記載しているシステムに応じたパワートラップ（GT型またはGP型）を選定してください。
- (11) ドレンヘッダーの寸法決定は、【ドレンヘッダーの寸法選定について（2）フラッシュ蒸気を伴わない場合】を参照してください。

詳しくは、当社にお問い合わせください。

ドレンヘッダーの寸法選定について

パワートラップのドレンヘッダーおよびオーバーフロー管径は下記手順にて選定します。

- (1) フラッシュ蒸気の流入を伴う場合
(オープンシステムの場合)



1. フラッシュ蒸気量を求めます。

$$\text{フラッシュ蒸気量 } F_s = Q \times (h_d' - h_h') / r$$

F_s : フラッシュ蒸気量 (kg/h)

Q : ドレン量 (kg/h)

h_d' : ドレン入口側の設定圧力 [Pi] における飽和水の比エンタルピー (kJ/kg)

h_h' : ドレンヘッダー設定圧力 [Ph] における飽和水の比エンタルピー (kJ/kg)

r : ドレンヘッダー設定圧力 [Ph] における蒸発潜熱 (kJ/kg)

2. 1.で求めたフラッシュ蒸気量で、表1よりベント管径を決定します。

3. オーバーフロー管径 [Dop] を決定します。(右図参照)

※ オーバーフロー管径はドレン入口管 [Dcip] と同口径以上必要です。

(右図参照)

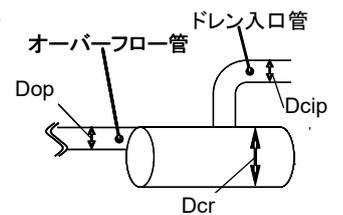
4. ドレンヘッダー長を1mとし、(a) (b) (c) のうちの最大値より

最小ドレンヘッダー径[Dcr]を確定します。(右図参照)

(a) オーバーフロー管径の3倍以上

(b) フラッシュ蒸気量で表1より求めた最小ドレンヘッダー径

(c) ドレン量で表2より求めた最小ドレンヘッダー径



$$Dop \geq Dcip$$

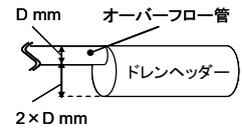
$$Dcr \geq 3 \times Dop$$

表 フラッシュ蒸気量とドレンヘッダー径

フラッシュ蒸気量 kg/h	ドレンヘッダー径 mm (in)	ベント管径 mm (in)
25以下	80 (3)	25 (1)
50	100 (4)	50 (2)
75	125 (5)	50 (2)
100	150 (6)	80 (3)
150	200 (8)	80 (3)
200	200 (8)	100 (4)
300	250 (10)	125 (5)
400	300 (12)	125 (5)
500	350 (14)	150 (6)
700	400 (16)	200 (8)
800	450 (18)	200 (8)
1000	500 (20)	200 (8)
1100	500 (20)	250 (10)
1400	550 (22)	250 (10)
1500	600 (24)	250 (10)

ドレン量 kg/h	ドレンヘッダー径 mm (in)
1000	80 (3)
1500	100 (4)
2000	125 (5)
3000	150 (6)
6000	200 (8)
10000	250 (10)

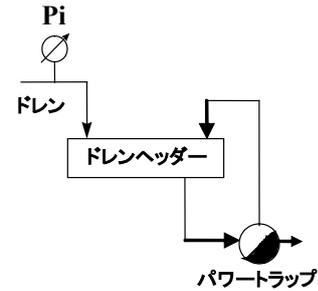
- ・オーバーフロー管径
GP10/GP14 : 50 mm (2in) 以上



ドレンヘッダー径は、オーバーフロー管径 D の 3 倍以上が必要です。
従って、ドレンヘッダー径は GP10/GP14 : 150 mm 以上、GP10L は 80mm 以上を選定してください。

- (2) フラッシュ蒸気を伴わない場合
(クローズドシステムの場合)

1. ドレン量によりドレンヘッダー径およびドレンヘッダー長さを求めます。



ドレン量 kg/h	ドレンヘッダー径mm (in) と長さm						
	40(1-1/2)	50(2)	80(3)	100(4)	150(6)	200(8)	250(10)
300	1.2(m)	0.7					
400	1.5	1.0					
500	2.0	1.2	0.5				
600		1.5	0.6				
800		2.0	0.8	0.5			
1000			1.0	0.7			
1500			1.5	1.0			
2000			2.0	1.3	0.6		
3000				2.0	0.9	0.5	
4000					1.2	0.7	
5000					1.4	0.8	0.5
6000					1.7	1.0	0.6
7000					2.0	1.2	0.7
8000						1.3	0.8
9000						1.5	0.9
10000						1.7	1.0

※給気圧力 [Pm] ÷ 背圧 ([Pb] + H) ≥ 2 の場合は、ドレンヘッダーの長さを1/2にできます。

- (3) フラッシュ蒸気量が少なく、ドレン量が多い場合
(過冷却の多量ドレンを圧送するオープンシステムの場合など)

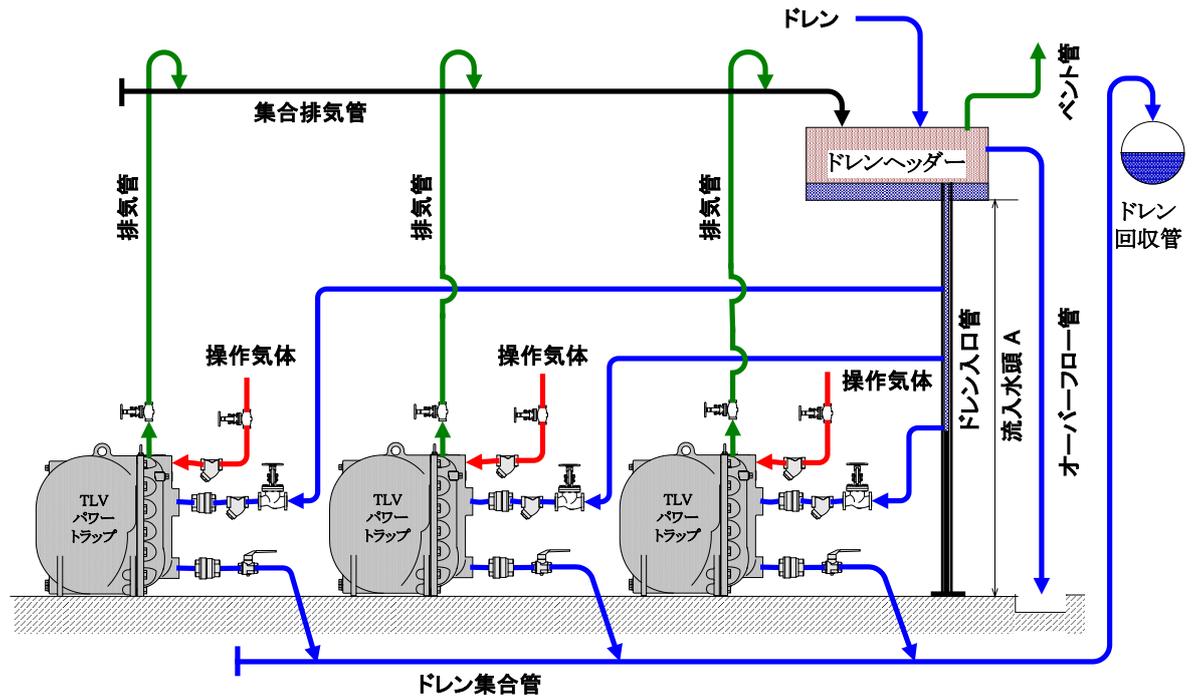
ドレンヘッダーの寸法は、(1)、(2) の寸法の大きい方を選定します。
ベント管径は (1) で選定します。

パワートラップを複数・並列に取り付ける場合

パワートラップを 1 本のドレン入口管から複数台取り付ける場合は、目安として下記のように配管します。

ドレン入口配管、ドレン集合管および集合ベント管のサイズは、パワートラップの取り付け数から決定してください。

この取説とは別に「仕様書」がある場合には、その仕様書に従ってください。



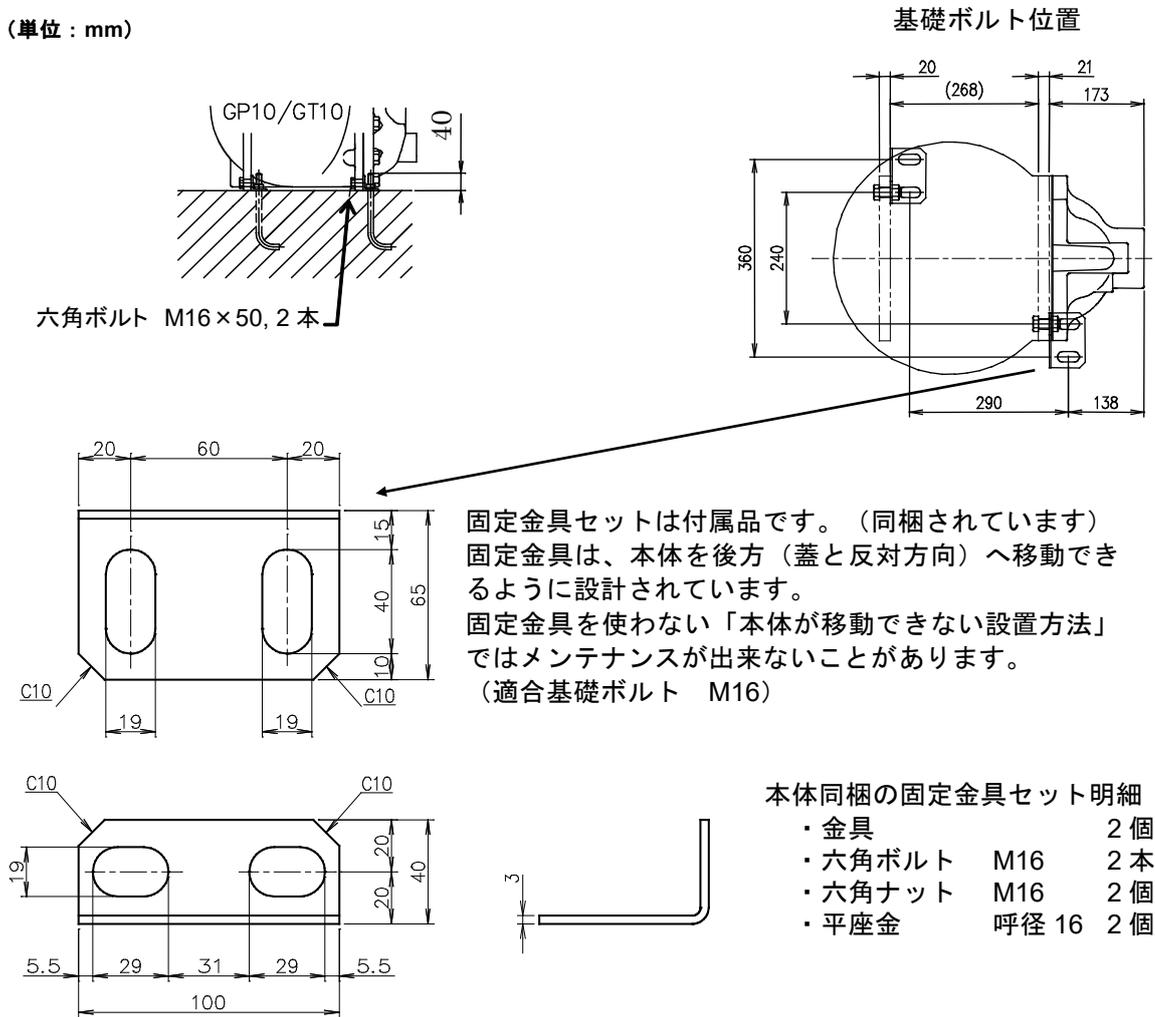
パワートラップ取り付け数	ドレン入口管サイズ	ドレン集合管サイズ	集合ベント管サイズ
2	125mm	80mm	40mm
3	150mm	100mm	50mm
4	200mm	100mm	65mm
5	200mm	125mm	65mm
6	200mm	125mm	80mm

パワートラップ取り付け数	オーバーフロー管径
2	80mm
3	
4	100mm
5	
6	125mm

設置および、メンテナンススペース

本体固定方法

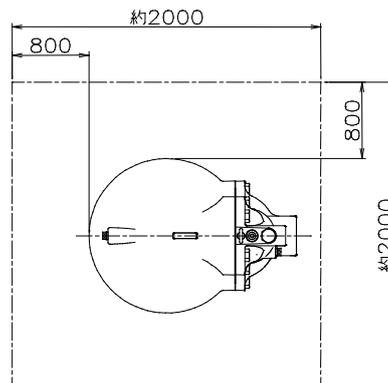
(単位 : mm)



メンテナンススペース

下図に示すメンテナンススペースは、GP10/GT10/ GP14/GT14 の分解、検査、交換に必要なスペースです。

(単位 : mm)



操作方法および定期点検



警告

- ・「設計された配管システム」に基づいて、全ての配管作業を終了した後は、もう一度全ての配管接続部の締め忘れ、ガスケットの入れ忘れ、不安定な取り付けなどがないか点検してください。
- ・なお、運転初期には作業員はベント管またはオーバーフロー管の開放部分から離れて作業をしてください。
運転初期には、大量のドレンが流入してパワートラップが一時的にオーバーロードになることがあります。この場合、オープンシステムではベント管またはオーバーフロー管から高温ドレンが吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。



注意

- ・配管の修正や分解が必要な場合、およびバルブの開閉・調整は熟練した整備員が行ってください。
- ・配管接続や本製品を分解する場合には、あらゆる努力をして出入口弁の閉鎖と内部圧力の減圧をして配管や本製品が完全に冷えてから作業してください。
- ・どの接続部を開けるときにも（接続部を取り外すときは、仮に内圧があっても急に流出するのを防ぐため）配管やボルトはゆっくりと外してください。



注意

製品を正しく設置し、最高許容圧力・温度など、製品の仕様範囲を外れる使用方法は絶対にしないでください。

製品の破損、異常作動などにより重大な事故を起こす恐れがあります。



注意

製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。

製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。



注意

製品の修理には、正規の部品を必ず使用してください、また製品の改造は絶対しないでください。

製品の破損、流体の吹き出し、異常作動によりケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

操作方法

(1) バルブの操作方法

各バルブの記号は、【オープンシステムの配管について】または【クローズドシステムの配管について】を参照してください。

ウォーターハンマーが発生した場合は、直ちに操作を中止し、操作しているバルブを閉めてください。

- ① 排気管バルブ [Ve] をゆっくりと開けます。
- ② 給気管バルブ [Vm] をゆっくりと開けます。
排気管 [Se]、ドレン入口管 [Si] に流出音がないことを確認します。
- ③ ドレン出口管バルブ [Vo] をゆっくりと開けます。
- ④ ドレン入口管バルブ [Vi] をゆっくりと開けます。
クローズドシステムでエア抜きバルブ [Va] を使用している場合、パワートラップが 2~3 回作動するまで [Va] を微開して内部のエアを抜きます。その後は [Va] を閉弁します。
- ⑤ パワートラップが間欠的に給・排気を行い、ドレンが圧送されていれば正常です。
 - 作動間隔は、流入ドレンの量や温度、操作気体（蒸気またはガス）、操作気体圧力により大きく異なります。（作動間隔とは、圧送始めから次の圧送始めまでの時間間隔です。）
 - 概略の作動間隔 $T_c(s)$ は、次の式で求められます。

$$T_c = 108,000 / Q \quad T_c = 238,000 / Q_p$$

$$Q : \text{流入ドレン量 } \text{kg/h}$$

$$Q_p : \text{流入ドレン量 } \text{Lb/h}$$
 - GP10/GT10/GP14/GT14 が、1 回の作動で圧送するドレン量は、約 30 リットルです。
1 回の圧送時間は、背圧や操作気体圧力により異なりますが、3 秒~30 秒です。

- (2) パワートラップの作動後に漏れやウォーターハンマーなどの異常が発生した場合は、直ちに給気管バルブ [Vm] →ドレン入口バルブ [Vi] →ドレン出口管バルブ [Vo] →排気管バルブ [Ve] の順でバルブを閉めてください。
- (3) パワートラップに異常を感じたときは、【トラブルシューティング】を参照してください。

定期点検と診断

定期点検には、外部点検と分解点検があります。

(1) 外部点検

- ・基本的には、3ヶ月に一度定期的に行ってください。
- ・チェック項目は、下記の通りです。
 - ① パワートラップまたは、他の接続部からの漏れがないこと。
 - ② パワートラップが間欠的に作動し、給気管、排気管に連続的な流れ音がないこと。
 - ③ 蒸気使用装置にドレン滞留が無いこと。または、装置温度の異常低下がないこと。
 - ④ オープンシステムの場合は、ドレンヘッダーからドレンのオーバーフローがないこと。
 - ⑤ オープンシステムの場合は、ベント管より蒸気の流出がないこと。
 - ⑥ ドレン出口管、または、ドレン回収管にパワートラップが作動したときに異常音がないこと。

(2) 分解点検

- ・【分解・組み立て】を参照してください。
- ・基本的には、2年に一度定期的に行ってください。
- ・内部チェック項目は、次の項目をチェックします。
 - ① フロートの上下によるスナップアクションの作動が、引っ掛かりなくスムーズであること。
 - ② GT型の場合、トラップユニットの弁開閉がスムーズであること。
 - ③ 給気弁および排気弁がスムーズに上下すること。
 - ④ フロートに損傷、浸水などの異常がないこと。
 - ⑤ 各部のボルトの緩み、脱落がないこと。
 - ⑥ その他、各ユニットの軸部や摺動部に異物の付着、異常な摩耗がないこと。
- ・分解後、本体／蓋のガスケットは必ず取り替えてください。
- ・損傷や作動上有害な摩耗のある部分は取り替えてください。
- ・取り替えが必要な部品は、【予備品リスト】を参照ください。

分解・組み立て



警告

フロートを直接火にかけて加熱しないでください。
内圧が上昇して、フロートが破裂し重大な人身および物損事故の恐れがあります。



注意

- ・配管の修正や分解が必要な場合、およびバルブの開閉・調整は熟練した整備員が行ってください。
- ・配管接続やGP/GTを分解する場合には、あらゆる努力をして出入口弁の閉鎖と内部圧力の減圧をして配管や製品が完全に冷えてから作業してください。
- ・どの接続部を開けるときにも（接続部を取り外すときは、仮に内圧があっても急に流出するのを防ぐため）配管やボルトはゆっくりと外してください。



注意

20kg程度以上の重量物については、吊り上げ装置などを使用してください。
腰痛、落下によるケガ、損傷などの恐れがあります。



注意

製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。
製品に圧力、温度が加わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。



注意

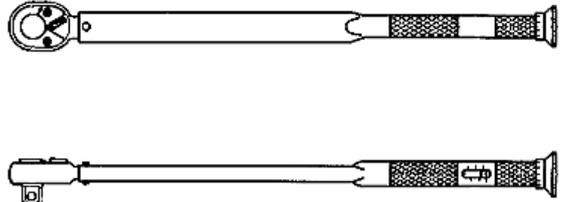
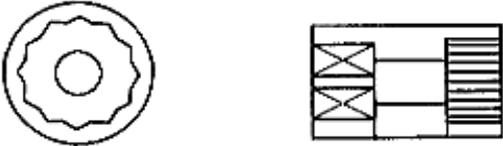
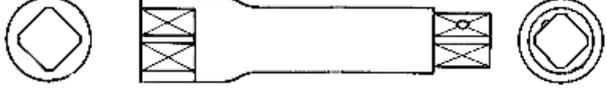
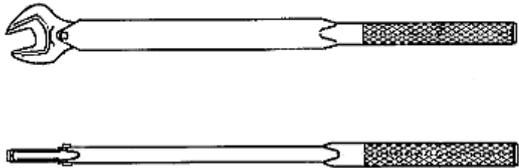
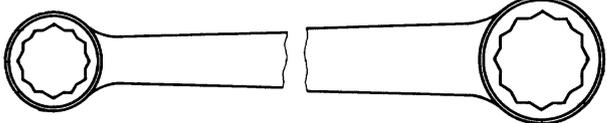
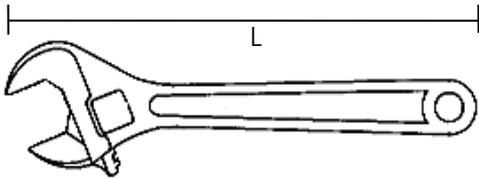
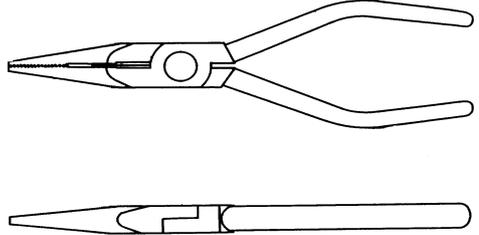
接続ネジ部を締め過ぎないようにしてください。
締め過ぎますと接続部が割れて流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする恐れがあります。

次ページからの方法で分解して部品を取り外します。組み立ては逆手順で行います。

メンテナンススペース（【設置および、メンテナンススペース】参照）が確保されている場合は、入口・出口の配管を外さずにメンテナンスが可能です。
メンテナンススペースがない場合は、入口・出口の配管接続部を外し、パワートラップを広い安全な場所に持ち出した後、作業を行ってください。

分解後、本体／蓋のガスケットは必ず取り替えてください。
損傷や作動上有害な摩耗のある部品は取り替えてください。
取り替えが必要な部品は、【予備品リスト】を参照ください。

分解・組み立て用工具リスト

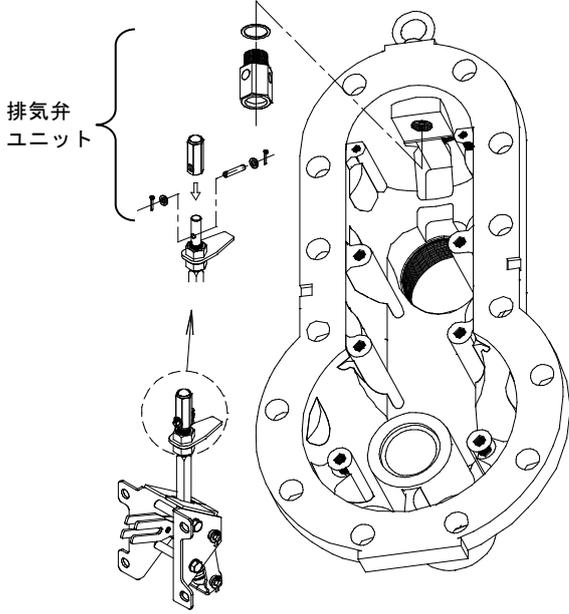
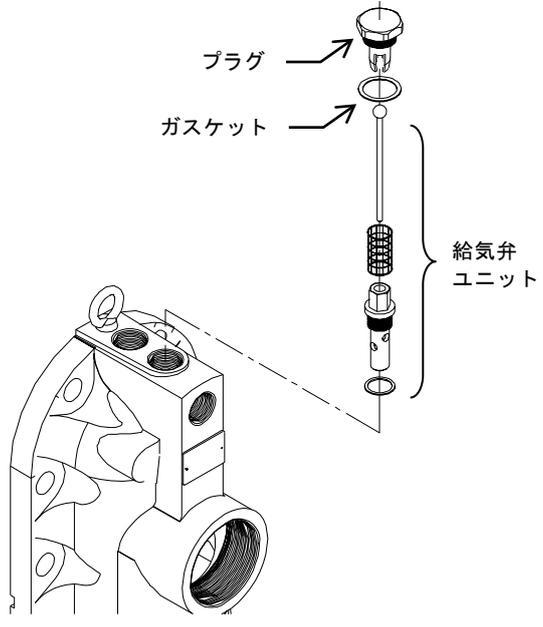
No.	工具名	手順 No.		工具図
		GP	GT	
1	トルクレンチ 30~200N・m	1	1	
		3	4	
		4	5	
		5	6	
		6	7	
2	ソケット 13mm, 17mm, 19mm 27mm, 30mm, 38mm	1	1	
		3	4	
		4	5	
		5	6	
		6	7	
3	エクステンションバー 150mm	4	5	
		6	7	
4	モンキー型トルクレンチ 80N・m	2	2	
5	メガネレンチ 13mm, 19mm, 27mm 30mm	1	1	
		3	4	
		4	5	
		5	6	
6	モンキーレンチ L=300mm	2	2	
7	ラジオペンチ	5	3	
		6	6	
			7	

※ 対象製品ご購入時、この取扱説明書とは異なるトルク値を記載した図面などを入手されている場合、それらのトルク値をご使用ください。

GP10、GP14 の分解・組み立て

手順 1 (蓋部、本体より取り外し)	手順 2 (フロート取り外し)
ボルト M20×55mm 14本 二面幅 30mm 締め付けトルク 200N・m	フロート二面幅 19mm, 30mm 締め付けトルク 60N・m
手順 3 (仕切板取り外し)	手順 4 (各ユニット取り外し)
ボルト M8×16mm 2本 二面幅 13mm 締め付けトルク 30N・m	ユニット締め付けボルト M12×20mm 4本 二面幅 19mm 締め付けトルク 60N・m

※ 対象製品ご購入時、この取扱説明書とは異なるトルク値を記載した図面などを入手されている場合、それらのトルク値をご使用ください。

手順 5 (排気弁、排気弁座取り外し)	手順 6 (給気弁、給気弁座取り外し)
	
<p>排気弁座 二面幅 27mm 締め付けトルク 160N・m</p>	<p>プラグ 二面幅 38mm 締め付けトルク 160N・m</p> <p>給気弁座 二面幅 17mm 締め付けトルク 160N・m</p>

※ 対象製品ご購入時、この取扱説明書とは異なるトルク値を記載した図面などを入手されている場合、それらのトルク値をご使用ください。

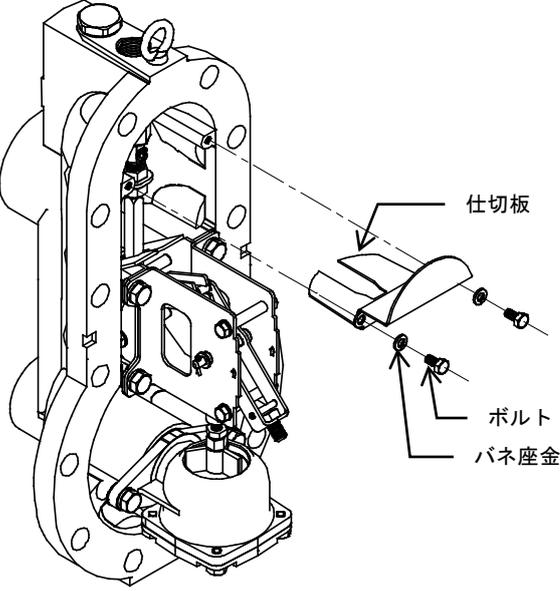
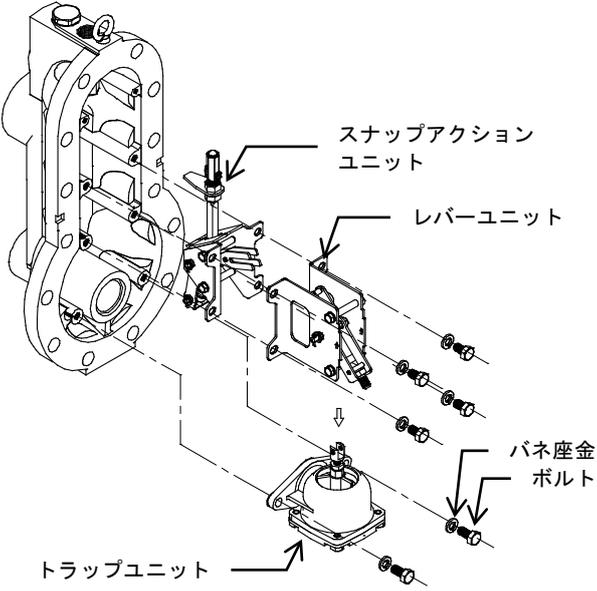
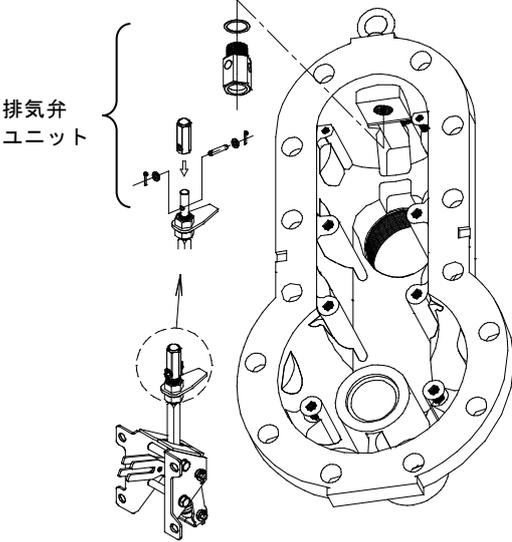
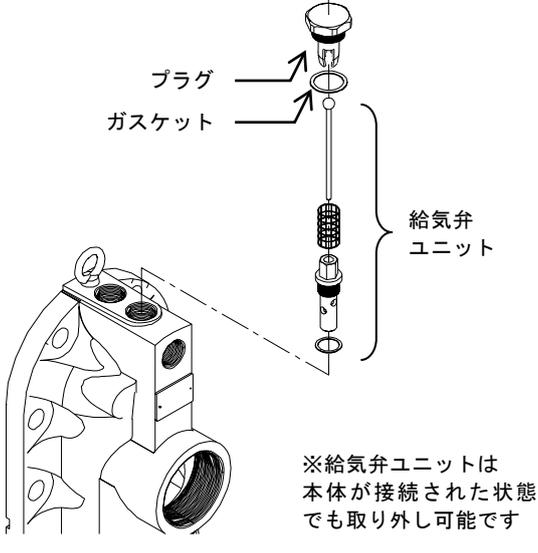
- 組み立ては、分解時の逆手順で行ってください。
- ネジ部、ボルトには焼付防止剤を塗布してください。
- 本体／蓋のガスケットは、必ず取り替えてください。
- 本体／蓋のボルトは片締めのないように左右均等に締めてください。
- なお、一度給気圧を通し GP/GT を加熱した後、GP/GT 内の圧力を大気圧までに減圧し、増し締め【200N・m】してください。一度増し締めした後は、絶対に増し締めにしないでください。

GT10、GT14 の分解・組み立て

手順 1 (蓋部、本体より取り外し)	手順 2 (フロート取り外し)
<p>ボルト M20×55mm 14本 二面幅 30mm 締め付けトルク 200N・m</p>	<p>フロート二面幅 19mm, 30mm 締め付けトルク 60N・m</p>

手順 3 (S. Aユニット - トラップユニット間、主弁固定軸取り外し)

※ 対象製品ご購入時、この取扱説明書とは異なるトルク値を記載した図面などを入手されている場合、それらのトルク値をご使用ください。

<p>手順 4 (仕切板取り外し)</p>	<p>手順 5 (各ユニット取り外し)</p>
	
<p>ボルト M8×16mm 2本 二面幅 13mm 締め付けトルク 30N・m</p>	<p>ユニット締め付けボルト M12×20mm, 6本 二面幅 19mm 締め付けトルク 60N・m</p>
<p>手順 6 (排気弁、排気弁座取り外し)</p>	<p>手順 7 (給気弁、給気弁座取り外し)</p>
	 <p>※給気弁ユニットは 本体が接続された状態 でも取り外し可能です</p>
<p>排気弁座 二面幅 27mm 締め付けトルク 160N・m</p>	<p>プラグ 二面幅 38mm 締め付けトルク 160N・m</p> <p>給気弁座 二面幅 17mm 締め付けトルク 160N・m</p>

※ 対象製品ご購入時、この取扱説明書とは異なるトルク値を記載した図面などを入手されている場合、それらのトルク値をご使用ください。

組み立ては、GP10/GP14 と同様に分解時の逆手順で行ってください。

【GP10、GP14 の分解・組み立て】

トラブルシューティング



警告

フロートを直接火にかけて加熱しないでください。
内圧が上昇して、フロートが破裂し重大な人身および物損事故の恐れがあります。



注意

- ・配管の修正や分解が必要な場合および、バルブの開閉・調整は熟練した整備員が行ってください。
- ・配管接続やG P / G T を分解する場合には、あらゆる努力をして出入口弁の閉鎖と内部圧力の減圧をして配管や製品が完全に冷えてから作業してください。
- ・どの接続部を開けるときにも（接続部を取り外すときは、仮に内圧があっても急に流出するのを防ぐため）配管やボルトはゆっくりと外してください。
- ・不具合の症状を見るために配管の一部をはずした状態で（G P / G T を動作させるために）給気管バルブやドレン入口バルブを開けるときは、外した配管の周りから整備員を安全な場所まで遠ざけてからゆっくりと操作してください。



注意

製品の分解、取り外しは、製品内部の圧力が大気圧になり、また製品表面温度が室温になってから行ってください。
製品に圧力、温度が伝わっている場合は、流体が吹き出し、ケガ、火傷、損傷などする場合があります。

設計された配管システムにおいて、所定の性能が得られないときは、多くの場合 次の原因が考えられます。

- （１） 配管の切クズ、溶接クズ、シール剤の混入による給気弁のゴミ噛みまたは、チャッキ弁のゴミ噛み。
- （２） 当初設計していた以上の背圧の変化、操作気体圧力の変化、流入ドレン量の変化。

システムの条件と発生した不適合の症状を把握して、点検し必要であれば調整してください。

症状からの原因追求

【不適合原因分析表】で、発生している症状から不適合の原因を把握し、
【原因と処置方法】を参照して修正してください。

不適合原因分析表

不適合の分類番号は【原因と処置方法】を参照してください。

	1回は作動したか？	本体内にドレンが滞留しているか？	給気管に連続した流れ音があるか？	排気管に連続した流れ音があるか？	不適合の分類（A～G）と原因（①～⑤）							
					A	B	C	D	E	F	G	
パワートラップが作動しない	NO	NO	NO	NO	①②③			①		③		
			YES	YES				①				
		YES	NO	NO	①④		①②		⑤			
			YES	NO						①		
	YES	NO	YES	YES				②	①			
			NO	NO		②			③			
			YES	YES					①			
		YES	NO	NO		①	①②		③④ ⑤			
			YES	NO						①		
			YES	YES					②	①		
	作動する	ドレンヘッダー（レシーバ、リザーバ）や装置にドレン滞留がある						②	①②③④		②④	①
		チャッキバルブから異常音がする						③				
出口配管から異常音がする						④						
排気管または、ドレンヘッダー（レシーバ、リザーバ）から蒸気が吹き出す											①	

原因と処置方法

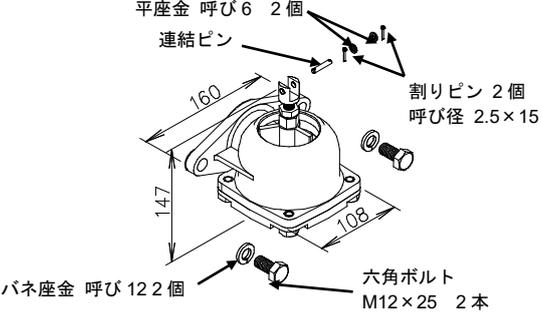
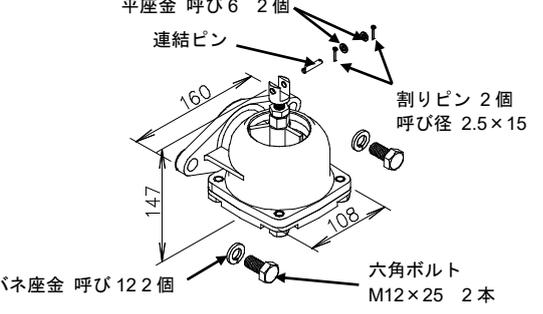
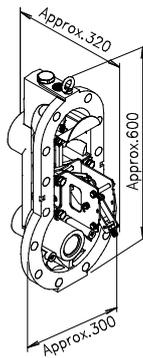
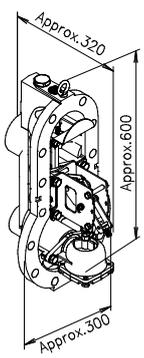
分類	原因	処置方法
A. 配管バルブの閉鎖	① 操作気体用バルブの閉鎖 ② 排気管バルブの閉鎖 ③ ドレン入口管バルブの閉鎖 ④ ドレン出口管バルブの閉鎖	<ul style="list-style-type: none"> 各部のバルブを操作手順に従ってゆっくり開ける。
B. ストレーナーのつまり	① 操作気体用ストレーナーのつまり ② ドレン入口管ストレーナーのつまり	<ul style="list-style-type: none"> ストレーナーの清掃。 <p>【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
C. 操作気体圧力、背圧 ドレン入口圧の 不適合	① 操作気体圧力 < 背圧	<ul style="list-style-type: none"> 操作気体圧力が低下している場合は、操作気体用減圧弁を調整するか、別の高圧ラインに接続する。 背圧が高くなった場合は、ドレン回収管 [Sr]（【オープンシステムの配管について】・【クローズシステムの配管について】図参照）に接続されているスチームトラップの吹き放しやバルブの締め忘れを点検する。 操作気体圧力は背圧より 0.1MPa 程度高くしなければなりません。 <p>【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
	② 給気量の不足	<ul style="list-style-type: none"> 給気管サイズが小さい場合は、サイズアップする。20mm (3/4in) 以上必要です。 <p>【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
	③ GP10、GP14 を使用してドレン入口圧 > 背圧になっている (【原因と処置方法】 G.他の設備の不適合 - ①参照)	<ul style="list-style-type: none"> ドレン入口圧 > 背圧の場合に、蒸気がドレン出口管へ流出する「ブロースルー」が発生します。出口チャッキバルブのチャタリングやウォーターハンマーが、発生する場合があります。 クローズドシステムで背圧が低下した場合も同様のことが起こります。 ドレン入口圧の上昇原因、背圧の低下原因を調査・修正する必要があります。
	④ GP10、GP14 を使用して操作気体圧力が高すぎる	<ul style="list-style-type: none"> 背圧に対し給気圧が2倍以上ある場合に、GP10、GP14 給気工程終了後の残圧蒸気が出口管に流出する「ブローバイ」が発生します。 <p>回収管ドレン温度が低いときに、ウォーターハンマーを発生させる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 操作気体圧力を必要な排出流量を低下させない範囲で減圧させる必要があります。

分 類	原 因	処 置 方 法
D. 配管の不適合	① 排気が正常に行われ ない	<ul style="list-style-type: none"> ● エアロック、ベーパーロックを起こしている。クローズドシステムの場合、排気管はドレンヘッダー（リザーバ）に接続しますが、次の項目により、ドレンとパワートラップ内の気体が入れ換わらないことがあります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 排気口とドレンヘッダー（リザーバ）の間にU字配管がある。 2. 排気管口径が 25mm(1in)以下 3. ドレンヘッダー（リザーバ）または、装置上部にスチームエアイベントが無い。 <p>配管の変更または、スチームエアイベントを取り付けてください。</p> <p>【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 排気管の最上部の高さがグラウンドより 3m 以上ある。 <p>GP10、GP14 の場合： 排気管の本体取出し口近くにスチームトラップを取り付けてください。</p> <p>GT10、GT14 の場合： 排気管をドレンヘッダーとドレン入ロストレーナーの間に接続し、排気管には、チャッキバルブを取り付けてください。</p>
	② 流入水頭が不足している ③ ドレン入口配管が小さい ④ ドレン入口バルブの流量が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ● 流入水頭を設計寸法以下にすると所定の排出流量が得られません。推奨の流入水頭寸法は 860mm です。 ● ドレン入口配管が小さい、またはドレン入口バルブがニードル弁などの Cv 値が小さいバルブを使用した場合にも所定の排出流量が得られないことがあります。 ● 設計配管口径または、フルボアボールバルブ、仕切弁などにする必要があります。 <p>【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>

分 類	原 因	処 置 方 法
E. パワートラップの故障	① 給気弁のゴミ噛み、摩耗 ② 排気弁のゴミ噛み、摩耗 ③ スナップアクションユニットのゴミ噛み、動作不良 ④ レバーユニットのゴミ噛み・動作不良 ⑤ フロートの破損 ⑥ GT10、GT14 主弁ユニットのゴミ噛みによる開閉弁不能	<ul style="list-style-type: none"> ドレンヘッダー（レシーバ、リザーバ）にドレン滞留があるのに、長時間パワートラップが作動せず、給・排気管に操作気体の流れ音が全くしない場合にはパワートラップの故障の可能性があります。ただし、給気圧<背圧の場合にも、この現象は起こります。 長時間パワートラップが作動せず、給気管に操作気体の流れ音が連続する場合は、パワートラップの故障です。 【トラブルシューティング ▲ 注意】を厳守してパワートラップを分解し以下のことを点検してください。 <ol style="list-style-type: none"> フロートを上下させて、スナップアクションユニットが作動するかどうかのチェックをする。 給気弁、排気弁にゴミ噛み、異常がないかをチェックする。 その他の動作を妨げる原因箇所をチェックする。 <p>以上の点検を行い、見つかった全ての欠陥の修理または、取り替えが必要です。</p>
F. チャッキバルブの不適合	① 入口チャッキバルブのゴミ噛み、摩耗、引っ掛かり	<ul style="list-style-type: none"> 給気された操作気体が、入口チャッキバルブから漏れて本体内圧が上昇せず、ドレンが排出されません。 <p>分解調査が必要です。 【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
	② 出口チャッキバルブのゴミ噛み、摩耗、引っ掛かり	<ul style="list-style-type: none"> 一旦排出されたドレンが再びパワートラップに逆流し、作動間隔が短くなり排出能力が低下します。 <p>分解調査が必要です。 【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
	③ 出入口チャッキバルブの取り付け方向間違い	<ul style="list-style-type: none"> 正常な方向へ修正が必要です。 <p>【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
	④ 出入口チャッキバルブのサイズが小さい	<ul style="list-style-type: none"> 排出能力が不足します。 <p>サイズアップが必要です。 【トラブルシューティング ▲ 注意厳守】</p>
G. 他の設備の不適合	① ドレンヘッダーへ、多量の蒸気が流入	<ul style="list-style-type: none"> 排気管やベント管から多量の蒸気が排出されているときは、ドレンヘッダー（レシーバ、リザーバ）のドレン流入管系へ、スチームトラップの吹き放しやバルブの締め忘れによる蒸気の流入が考えられます。ドレン流入管系のこれらのトラップやバルブを点検する必要があります。

予備品リスト

<p>1A レバーユニット(GP10/GP14)</p> <p>バネ座金 呼び 12 4 個 六角ボルト M12×20 4 本</p>	<p>1B レバーユニット(GT10/GT14)</p> <p>バネ座金 呼び 12 4 個 割りピン 1 個 呼び径 2.5×15 六角ボルト M12×20 4 本</p>	<p>2 フロート&バネ座金</p> <p>バネ座金 呼び 12 フロート φ190 210</p>
<p>3 スナップアクションユニット</p> <p>280 140 90</p>	<p>4 排気弁ユニット</p> <p>ガasket 排気弁座 排気弁 連結ピン 平座金 呼び 6 2 個 割りピン 呼び径 2.5×15 2 個 φ30 52 50</p>	<p>5A 給気弁ユニット (GP10/GT10)</p> <p>ガasket プラグ スクリーン 給気弁 給気弁座 ガasket (φ27*φ22*t1) 36 36 125 85</p>
<p>5B 給気弁ユニット (GP14/GT14)</p> <p>ガasket プラグ スクリーン 給気弁 給気弁座 ガasket (φ27*φ22*t1) 36 36 125 85</p>	<p>6 ガasket</p> <p>155 501 241</p>	

<p>7A トラップユニット(GT10)</p>  <p>平座金 呼び6 2個 連結ピン</p> <p>割りピン 2個 呼び径 2.5×15</p> <p>六角ボルト M12×25 2本</p> <p>バネ座金 呼び12 2個</p>	<p>7B トラップユニット (GT14)</p>  <p>平座金 呼び6 2個 連結ピン</p> <p>割りピン 2個 呼び径 2.5×15</p> <p>六角ボルト M12×25 2本</p> <p>バネ座金 呼び12 2個</p>
<p>8A GP10/GP14 カバーユニット (鋳鉄)</p> <p>8C GP10/GP14 カバーユニット (鋳鋼)</p> <p>9A GP10/GP14 カバーユニット (ステンレス鋳鋼)</p> 	<p>8B GT10/GT14 カバーユニット (鋳鉄)</p> <p>8D GT10/GT14 カバーユニット (鋳鋼)</p> <p>9B GT10/GT14 カバーユニット (ステンレス鋳鋼)</p> 

カバーユニットを注文する際は、型式、接続形状、接続サイズが必要になります。

保管について

本製品は、開口部には、ラベル・ポリシートなどで密封をしており、防錆・異物混入防止などの処置をして納入しております。

本製品は、配管に取り付け直前まで保管要領を遵守してください。もし、以下の保管要領を遵守できなかった場合、錆・異物混入などにより、本製品の保証ができないことがあります。

保管要領

- (1) 本製品は、雨水・夜露などに濡れないよう、屋内の棚などで保管してください。
- (2) 本製品は、湿度 80%以下の場所で保管してください。
- (3) 本製品の密封、包装に使用しているラベル・ポリシートなどが破損した場合、すぐに交換または適切なテープなどで補修し、密閉の状態を維持してください。
- (4) 本製品を再度梱包するときは、移動や運搬する間に、本製品が落下しないようにまた衝突して破損しないように、本製品を固定し、緩衝材を使用して梱包してください。
- (5) 本製品を長期間（約 6 ヶ月以上）保管される場合は、6 ヶ月以内の間隔で開梱して、錆・異物混入などがいないか目視で確認してください。
防錆剤を使用されている場合は、同量の新しいものと交換してください。
また、異常のないことを確認した後は、元通りに開口部の密封を行ってください。
- (6) 開口部を密封しているラベル・ポリシートなどは、本製品を配管に取り付け直前に取り除いてください。

製品保証

本保証書に定める条件に従い、株式会社ティエルバイ（以下「TLV」といいます）は、TLV もしくは TLV グループ会社が販売する製品（以下「本製品」といいます）が、TLV が設計・製造したものであり、TLV が公表した仕様書（以下「仕様書」といいます）に適合しており、製造上の欠陥がないことを保証します。ただし、本保証書の内容が、本製品に関する保証の内容のすべてであり、明示または黙示を問わず、その他の保証などは一切行いません。

TLV は、当社とは関係のない第三者が製造した製品または部品（以下「部品」といいます）については、保証は行いません。

保証が適用されない場合

本保証書に定める条件は、次のような原因による欠陥や故障の場合には適用されません。

1. TLV、もしくは TLV グループ会社以外の者、または TLV が認定したサービス担当者以外による不適切な出荷、設置、使用、取り扱いなどの場合。
2. 汚れ、スケール、錆などが原因の場合。
3. TLV もしくは TLV グループ会社以外の者、または TLV が認定したサービス担当者以外による不適切な分解・組み立てが行われた場合。
または、適切な点検・整備が行われていない場合。
4. 自然災害、天災地変もしくは不可抗力による場合。
5. 間違った使用、通常の方法以外での使用、事故、その他 TLV、もしくは TLV グループ会社の支配が及ばないことを原因とする場合。
6. 不適切な保管、保守または修理による場合。
7. 取扱説明書の指示に従わないで、または業界で認められている慣行に従わない方法で製品を使用した場合。
8. 本製品が意図していない目的または方法で使用した場合。
9. 本製品を仕様範囲外で使用した場合。
10. 適用外流体^{※1}に本製品を使用した場合。
11. 本製品の取扱説明書に記載されている指示に従わなかった場合。

※1：蒸気、空気、水、窒素、二酸化炭素、不活性ガス（例えば、ヘリウム、ネオン、アルゴン、クリプトン、キセノン、ラドンなど）以外の流体

保証の期間

本製品の保証期間は、最初のエンドユーザーに納入されてから 1 年間、または TLV 出荷後 3 年間のいずれか早く到来する日まで有効です。

保証の範囲とその条件

上記保証の期間内に TLV、もしくは TLV グループ会社の責任により故障を生じた場合は、その製品の交換または修理のみを行います（それ以外の保証は行いません）。ただし、以下の書類の提出を条件とします。

- (a) 保証が適用されることが証明できる事項が記載されたもの。
- (b) 購入履歴が証明できる事項が記載されたもの。

なお、交換または修理の対象となる本製品の返送などに関する費用は、購入者またはエンドユーザーの負担とさせていただきます。

責任の限定

TLV、もしくは TLV グループ会社は、本製品または本保証内容に関連して被るいかなる種類の損失（購入者、エンドユーザーの損失を含むがこれらに限らない）※2について、TLV、もしくは TLV グループ会社、またはそれらの代表者もしくは担当者が当該損失の発生の可能性について知らされていたか、認識すべきであったかにかかわらず、いずれの責任の理論※3に基づく責任も負わないものとしします。

上記規定にかかわらず強行法規などの適用により、本製品または本保証内容に関連して、TLV、もしくは TLV グループ会社が負うことになる責任がある場合、その責任は、購入者が TLV、もしくは TLV グループ会社に実際に支払った本製品の代金額（ただし、製造上の欠陥が認められる本製品の代金額に限られ、製造上の欠陥が認められない本製品の部分は含まない）を上限とします。

※2：通常損害のほか、間接損害、付随的損害、特別損害、派生的損害、拡大損害、製造ラインの停止に伴う損害を含みますが、これらに限りません。

※3：契約、不法行為（過失を含みます）、その他の理由のいずれによるかを問いません。

保証の分離有効性

本保証内容のいずれかの項目が無効と判断された場合においても、その他の規定は影響を受けないものとしします。

アフターサービス網

アフターサービスのご用命は、最寄りの営業所、または下記のカスタマー・コミュニケーション・センター(CCC)にお願いします。

苫小牧営業所、仙台営業所、東京営業所(東京 CES センター)、静岡営業所、名古屋営業所、富山営業所、大阪営業所、加古川営業所、岡山営業所、広島営業所、福岡営業所

株式会社 ティエルバイ

本社・工場 兵庫県加古川市野口町長砂881番地 〒675-8511

カスタマー・コミュニケーション・センター(CCC)

TEL (079)427-1800

FAX (079)422-2277

ホームページ <https://www.tlv.com>

TLV技術110番 (079)422-8833